

アジア地域における高齢化への政策強化－高齢化社会の課題と対応－

Strengthening of Policy on Aging in Asia-Challenges of Aging Societies and Policy Responses-

(実施期間:2018年11月9日)

1. 本研修の目的

アジア地域の多くの国々において高齢化の進展は著しく、新たな健康課題となっている。わが国は世界有数の長寿国であり、高齢者ケアに関する制度や経験を有していることから、わが国の高齢化対策のこれまでの変遷や現在推進している地域包括ケアシステム等に関する講義・演習を通して、わが国の知見をアジア各国で活用するための方策を検討することを目的とした。

2. 実施方法

国際協力機構（JICA）の依頼を受けて、本年度はアクティブエイジングを支える食生活と口腔保健のあり方に関して、わが国のこれまでの経験・知見ならびに関連政策を提供することによって、研修員の自国での対応策を考えてもらうことを企図して、栄養・食生活支援と口腔ケアの両面から講義とミニ演習を行った。前者の栄養・食生活支援については石川みどり上席主任研究官（生涯健康研究部）が担当し、日本の栄養政策の全体像を説明した後、高齢期の食事・食生活の課題とその解決にむけた栄養施策の動向、及び、自治体の地域包括ケアにおける栄養管理連携パスの構築事業を紹介した。後者の口腔ケアについては三浦宏子部長（国際協力研究部）が担当し、日本の高齢期の歯科口腔保健の課題について統計データと研究知見について説明を行うとともに、近年、注目を集めているオーラルフレイル対策についても言及した。また、途上国でも活用可能な口腔機能評価スケールについても紹介した。

講義内容について、活発な質問応答が行われ、日本のシステムと比較することにより、研修員の自国での対応策の違いについての意見も提示された。

3. 参加者

本年度の参加者は、自国で中央政府や地方政府にて高齢者ケアを担う福祉・社会保障分野と保健・医療分野の中堅職員であり、ミャンマーからの2名、スリランカからの3名、タイからの3名、ベトナムからの1名の計9名であった。

<科学院での講義風景>

